

大牟田市立天の原小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、大牟田市南西部に位置し、校区南側に野間川が流れるとともに校区北部には高取山がある。また、国指定の装飾古墳「萩の尾古墳」もあり、自然環境や文化的環境に恵まれている。さらに、市立の特別支援学校にも近い。そこで、本校のESDでは、環境教育と福祉教育を中心に据え、1年生から6年生まで生活科や総合的な学習の時間においてESDを推進している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画（生活科・生活、総合的な学習の時間・総合）

	環境教育		福祉教育	
1年	ひとつぶのたねから	生活	ひろがれえがお	生活
2年	ぐんぐんのびろ	生活	みんな大きくなったよね	生活
3年	学校に飛んでくる鳥を観察しよう	総合	仲よし交流会をしよう 障害のある方の気持ちを知ろう	総合 総合
4年	リサイクルの仕組みを考えよう	総合	七夕飾り・七夕交流をしよう	総合
5年	野間川環境探検隊	総合	ふれあい遊び交流をしよう	総合
6年	世界の環境問題について調べよう	総合	高齢者の気持ちを知ろう	総合

3 特徴的な活動事例

＜【福祉教育】4年生「七夕飾り・七夕交流をしよう」（総合的な学習の時間 1学期）＞

(1) 目標

- 特別支援学校の人たちとの交流を通して、いろいろな人たちとのよりよい関わり方を考えて行動することができる。
- 支援学校の人たちの気持ちやできることを考えて、一緒に作れる飾りの準備をしたり、集会での関わり方を考えたりすることができる。
- 3年生の時の特別支援学校の交流を振り返ったり、4年生での交流の様子の映像を見たりすることを通して、特別支援学校の友達との関わり方を見通しをもつことができる。

(2) 実践の展開

- ①特別支援学校の友達と一緒に七夕飾りを作る計画を立てよう。
 - ・昨年度の交流を想起したり、支援学校の人たちの活動の様子の映像をみて、何ができるか話し合った。そのことで、特別支援学校の友達のできることを理解し、どんな飾りを作るか話し合うことができた。
- ②飾り作りの準備をしよう。
 - ・特別支援学校の先生からのアドバイスカードを参考に、それぞれのグループで七夕飾りづくりの準備をした。子どもたちは、グループの友達のできる作業を生かせるように、折り目をつけたり線を引いたりするなど準備の工夫をすることができた。(写真右)
- ③七夕飾りを作ろう。
 - ・計画に従って、グループ毎に自己紹介や簡単なゲームの後、七夕飾り作りを行った。活



動が進むにつれ、緊張がほぐれ、声かけをしたり手を添えてはさみで切ったり、のりつけの手助けをしたり進んで関わることができた。

④七夕飾り作りを振り返り、七夕交流会での関わり方を考えよう。

・飾り作りでの自分の関わり方を振り返り、次の七夕交流会でのよりよい関わり方を考えるようにした。自分の関わり方の良さや課題を見つけ、次の七夕交流での関わり方をそれぞれが考えることができた。

⑤七夕交流会に参加しよう。

・計画に従って、特別支援学校や米生中学校の人たちと積極的に関わり、七夕交流会を楽しむことができたようにした。はじめて中学生も一緒に参加しての交流（写真右）であったため、はじめは、どのように関わっていいのか分からず戸惑っていたが、しだいに関わるようになり、交流することができるようになった。



⑥七夕飾り作り・交流会を振り返ろう。

・教師の話や特別支援学校の友達からの手紙などから、2つの交流を振り返り、良さや課題、今後の関わり方について考えさせた。活動を全体を通し自分の関わり方を振り返り、相手の気持ちやできることを尊重することの大切さに気付くことができた。

(3) 子どもたちの様子

昨年度に引き続きの交流だったため、一緒に遊んだ子どもたちのことはよく覚えており、交流をととても楽しみにしていた。今回は遊ぶだけでなく、一緒に飾りを作る活動などもあり、相手ができることを活動の様子の映像等で理解し、折り紙に線を引いたり折り目をつけたりして一緒に作ることを意識した準備をすることができた。

また、七夕飾り交流では、進んで声をかけたり手を添えたりするなど、相手の気持ちやできることを考えて交流することができた。さらに交流の振り返りでは、今までの自分の関わり方を振り返り、いろいろな人たちとのよりよい関わり方について考えることができた。

(4) 成果と課題

○「してあげる」ではなく、相手ができることを尊重しながら一緒に活動することを考えたことは、いろいろな人たちとのよりよい関わり方を考える上でよい経験となった。

○七夕交流会は中学校を含めた3校の交流会であるため、中学生が参加する交流では、戸惑う子どもも多く、3校の交流では、事前に中学生と本校児童の役割分担の詳細を決めておく必要があった。

4 本年度の成果と課題

○成果

・環境教育・福祉教育とも開校後3年間、各学年で行う活動内容を変えずに継続的に行うことで、前年度行った活動を本年度の子どもたちも引き継ぎ、より工夫された活動が見られた。

○課題

・継続的に行うことで、いい面もあるが、より主体的な活動にするためには、子ども自らが見つけた課題や新しい活動を取り入れていく必要がある。